

## 平成二十八年地区座談会の報告について

6月21日から7月13日までの日程で開催いたしました地区座談会には、多くの町民の皆さまのご出席をいただきありがとうございます。

おかげさまで延べ六百六十名の方がたの出席をいただき、貴重な提言や要望をいただくことができました。

これらの事項に關しましては、これからの「まちづくり」に生かしたいと考えています。

つきましては、一部ではございますが報告をいたします。



### (スクールバスの利用拡大)

一、子どもの数が減少し、集団登校が難しい状況となつていきます。スクールバスを利用できる範囲を拡大できないでしょうか。

見直しのためには、一部の地区だけでなく、津野町全体のことを考えて距離や年齢などの基準も検討する必要があります。PTAの方にも入っていただき、議論を重ねながら、ベストなものを考えていかななくてはならないと思います。色いろな意見をまとめていただき、それを出し合つて議論していきましょう。

### (一次産業の振興対策)

二、津野町は一次産業を振興したいということだが、日本がTPPに参加すれば、農業は衰退するのに、その政策はどうかと思います。

今、ものをつくることで農地が守られていますが、それを止めると集落は疲弊していきまふ。そのために

も、農地を守つて収入を得る農家を育てていかなければなりません。

付加価値をつけて売ることでも大事で、加工品等の開発も望まれるところです。

### (竹産業の創出)

三、土佐山地域では、竹を材料とした産業があるようです。竹は7年から10年で伐れますが、木は40年から50年しないと伐れません。フローリングにも竹が使われているようですので、研究をしてみてもどうでしょうか。

竹については、県の産業振興計画の中に位置づけて、アクションプランで実施しており、確かに高知県で竹をいかに活用するかは大きなテーマになっているようで、どのようにな需要を図っていくかがポイントであると思います。そのような取り組みを注視しながら、参画していくことも考えていきたいと思ひます。

### (国道下の樹木の伐採)

四、数年先を見据えてのお

願いですが、国道下の樹木が茂り、川や対岸が全く見えず、十年先は更にひどくなると思ひます。町が計画的に、所有者に伺い、見通しの良い、日の当たる、川の見えるまちづくりを進めてほしいです。

河川にかかる樹木の伐採は、魚族からしても自然景観の観点からも伐つた方がいいのですが、地主の許可と伐採後の樹木を河川に放置はできず経費がかかつてしまうという問題があります。県とも協議しながら、河川環境保全の中で行政ができる仕組みを考え、提案していききたいと思ひます。

### (食料等の備蓄状況)

五、大地震等の場合の避難所が各地域に設けられているが、避難してからの水や食糧について、その物資がすぐに調達できるのかお聞きしたいです。

平成二十五年にマグニチュード九クラスの大地震の被害想定が発表されていますが、津野町の場合、避難所に最大で千人避難するこ

とが想定されており、町として一週間分の食料を備蓄しています。水についてもペットボトルを備蓄していますし、川水をきれいにする浄水器も二台備えています。ただ、熊本地震でもありましたが、避難所生活が長引くと体調を崩される場合がありますので、自分の家で住めるようにぜひ住宅を耐震構造にしたいです。また、非常時に備え、各家庭で三日分ぐらいの食べ物や飲料を備蓄するように願ひします。

### (企画調整課)

